

第26回植物オルガネラワークショップ 「オルガネラ」からはじまる研究展開の最前線

日時 3月16日（土）13:00-18:50

会場 神戸大学統合研究拠点 コンベンションホール

世話人(50音順)：泉 正範（理化学研究所），伊藤容子（お茶の水女子大学），小保方潤一（摂南大学），
加藤裕介（摂南大学），楠見健介（九州大学），高林厚史（北海道大学），西田敬二（神戸大学），
西村芳樹（京都大学）[五十音順]

概要：細胞小器官は、植物の発生、機能、環境適応において重要な役割を担っています。本ワークショップは、多様な分野の研究者が集い、植物オルガネラに関する最新の知見、関連技術を交換し、議論を行う機会を提供することを目的としています。ミキサーも開催予定ですので、ぜひご参加ください。ワークショップは無料でどなたでも参加していただけますが、ウェブページからの事前登録を奨励しております。

植物オルガネラワークショップ HP：<https://sites.google.com/view/plant-organelle-workshop>

13:00 開会 世話人挨拶

セッション1 (13:05-15:55)

13:05 膜分断装置の特異点 単細胞生物のオルガネラ分裂装置が、なぜ左右相称動物の高速神経小胞膜分裂装置に進化できたのか（米国より zoom）

井元祐太（セントジュード小児研究病院 神経発生学学部，神経細胞生物学部門）

13:45 膜交通経路分岐の場トランスゴルジ網における積荷選別の可視化解析

清水優太郎¹，中野明彦¹，植村知博²（¹理化学研究所，²お茶の水女子大学）

14:25 休憩

14:35 アミロプラストの沈降を重力シグナルに変換する仕組み

西村岳志（自然科学研究機構・基礎生物学研究所・植物環境応答研究部門）

15:15 微弱光環境に生育する植物の光獲得戦略

後藤栄治（九州大学大学院農学研究院）

15:55 休憩

セッション2 (14:25-17:25) 進化するゲノム編集技術

16:05 PPR タンパク質を利用したトランスクリプトーム編集技術の開発

中村崇裕（九州大学）

16:45 塩基編集技術の開発と応用展開

西田敬二（神戸大学先端バイオ工学研究センター，大学院科学技術イノベーション研究科）

17:25 休憩

特別講演

17:40 遺伝子の水平転移とゲノム進化—分子の時間から進化の時間まで—

小保方潤一（摂南大学）

18:40 総合討論

18:50 閉会

連絡先：西村芳樹（京都大学）yoshiki@pmg.bot.kyoto-u.ac.jp

加藤裕介（摂南大学）yusuke.kato@setsunan.ac.jp

第41回 植物生理若手の会（共催 日本光合成学会若手の会） 「キャリア選択を支えた研究ネットワーキング」

日時 3月16日（土）14:30-17:00

会場 C会場（国際会議場403）（ハイブリッド開催）

世話人（50音順）：磯田珠奈子（県立広島大）、伊藤岳洋（東京農工大）、今泉滉（京都大）、田中謙也（神戸大）、平田梨佳子（京都大）、山本千莉（京都大）

植物生理若手の会は40年以上に渡り、有志の会として学生・若手研究者の育成のために活動してきました。今回は、日本光合成学会若手の会との共催企画とし、若手研究者における研究ネットワーク形成の重要性について議論する講演会を企画しています。講演者は植物生理と光合成から二名ずつお迎えし、それぞれの立場から研究者同士の「縁」とキャリア選択についてお話しいただきます。

- | | |
|-------|--|
| 14:30 | 開会 世話人挨拶 |
| 14:35 | フットワークは軽くてなんぼ！
岡田萌子（新潟大・自然科学） |
| 15:05 | 博士課程、皆で渡れば怖くない
小林優介（茨城大・理） |
| 15:35 | 休憩 |
| 15:45 | やって良かったと思うこと～研究生活5年間の人脈形成の視点から～
吉原晶子（大阪公立大・理） |
| 16:15 | D&Iとどう付き合うか
清水隆之（奈良女子大・自然科学） |
| 16:45 | 総合討論 |
| 16:55 | 閉会 |

※終了後に懇親会を予定しています。希望者は植物生理若手の会のホームページ、SNSアカウント等からのお知らせをご確認いただき、事前申し込みをお願いします。

第19回日本原形質連絡勉強会

日時 3月17日(日) 19:00-21:00

会場 G会場

世話人：藤本祐司（立教大・理）、野田口理孝（京都大・院理）

原形質連絡は隣接する植物細胞をつなぐ通路状の構造であり、タンパク質、RNA、植物ホルモン等の移行の場となっていると考えられています。本研究会では年に2回、原形質連絡に関わる研究に携わるスピーカーからの話題提供をもとに議論を行う勉強会を開いてきました。今回は、筑波大学の大場裕介さんにスピーカーをお願いし、議論を行いたいと思います。参加登録等は不要ですが、当日に簡単な守秘義務誓約への同意の確認をおこなう予定ですので、予めご承知おきください。

座長 藤本祐司

- | | |
|-------|---|
| 19:00 | はじめに |
| 19:05 | シロイヌナズナ切断花茎の組織癒合過程における Plasmodesmata callose binding protein 2 (PDCB2) の機能解明
大場裕介（筑波大・院理工情報生命） |
| 19:30 | 総合討論 |
| 19:55 | 終わりに |

植物科学プレゼンワークショップ 2024

「話そう！伝えよう！つながろう！」

日時 2024年3月17日(日) 19:00-20:30 (参加受付 18:30-) 会場 H会場

講師：竹内 明日香 (一般社団法人アルバ・エデュ代表理事)

世話人：古水千尋 (広島大学), 市橋泰範 (理化学研究所), 古谷朋之 (立命館大学)

概要：

研究発表や講演、授業、就職活動など、誰かに「自分の考え」を伝える機会は多く存在します。

一方で、人前で話すことへの苦手意識や「伝わるように話す」にはどうしたらいいのかと悩まれている方も多いのではないのでしょうか。

本ワークショップでは、聞く人の心にグッと刺さる発表を準備するコツを学びます。

プレゼン教育のプロに学んで、「人を動かす」プレゼンを一緒に考えませんか？

新たな交流・研究が生まれるきっかけにもなりますように！

19:00	はじめに
19:03	自己紹介～Ice Break
19:11	1. なぜ話す力か、何を指すか？ 2. なぜ話せないのか 3. 考える・伝える・見せるの3ステップ 4. 聴衆により訴える手法
20:02	ヒアリングセッション
20:22	ミニプレゼン
20:27	終わりに

このワークショップは、どなたでも無料でご参加いただけます。下記フォームより事前にお申し込みください。参加人数に限りがあるため、早めに締め切ることがあります。

登録フォーム：<https://forms.gle/BiCDFBc2nYBVUu7t7>

登録締め切り：3月1日(金)

連絡先：古水千尋 (chihiro-furumizu@hiroshima-u.ac.jp)



第3回原核光合成生物シンポジウム

日時 3月17日（日）19:00–21:00（参加受付18:30–） 会場 X会場

世話人：原田二郎（久留米大）、塚谷祐介（海洋研究開発機構）、浅井智広（中央大）

光合成細菌やシアノバクテリアといった原核光合成生物は広い分野で研究されており、日本発の数多くの成果が今も大きなインパクトを与え続けています。本シンポジウムでは、主に原核光合成生物の研究を行っている専門家を招いてご講演いただきます。多くの方に原核光合成生物の世界に触れていただき、新たな研究が生まれる契機となれば幸いです。当日は現地オンサイトとオンライン配信とのハイブリッド形式での開催となります。どちらのご参加の際にも、以下のフォームへご記入をお願いします（URLまたはQRコードをご利用ください）。

参加フォーム：<https://forms.gle/w2TdXYtVHjArFQRf9>

※締め切り：3月8日（金）



座長：浅井智広

-
- | | |
|-------|--|
| 19:00 | 世話人挨拶（塚谷祐介） |
| 19:05 | シアノバクテリアはアシル化プラストキノンを蓄積する
石川寿樹 ¹ ，谷川梨瑚 ¹ ，坂口浩菜 ² ，高野駿也 ¹ ，日原由香子 ¹ （ ¹ 埼玉大院・理工学， ² 埼玉大・理） |
| 19:35 | 盗葉緑体現象から探る藻類化の進化
大沼亮（神戸大・内海域環境） |
| 20:05 | 紅色光合成細菌をモデルとした超硫黄分子シグナル制御システムの解析
清水隆之（奈良女大・自然科学） |
| 20:35 | 光合成細菌 <i>Rhodobacter capsulatus</i> における機能未知ニトロゲナーゼ類似酵素が関わる新規な硫黄代謝経路の発見
守本好希（名古屋大・生命農学） |
| 20:55 | 閉会挨拶（原田二郎） |

植物ホルモン分析ワークショップ

日時 3月19日(火) 13:30-16:00

会場 B会場

言語 日本語

オーガナイザー：朝比奈雅志 (帝京大学・バイオサイエンス学科/帝京大学・先端機器分析センター)

植物ホルモンは植物の生長や環境応答など、生活環の多くの場面で重要な生理作用を示す化合物群であり、数 ng~pg/mg (乾燥重量) という極めて低濃度で作用することが知られている。本ワークショップでは、植物ホルモン分析技術や植物ホルモン分析を活用した興味深い研究事例を紹介すると共に、機器分析に関わる技術的基盤、ノウハウ、植物ホルモン研究の展開などについて、情報交換・議論する場としたい。

- 13:30 始めに
朝比奈雅志 (帝京大学・バイオサイエンス学科)
- 13:35 帝京大学・先端機器分析センターにおける植物ホルモン分析
湯本絵美・朝比奈雅志 (帝京大学・先端機器分析センター)
- 13:45 イネにおいて主に機能するジャスモン酸イソロイシン受容体の同定
宮本皓司 (帝京大学・バイオサイエンス学科)
- 14:05 植物の再生における内生植物ホルモンの挙動
梅原三貴久 (東洋大学・生命科学部応用生物科学科)
- 14:25 理研 CSRS 植物ホルモン解析プラットフォームの紹介—nano-LC を使った微小領域でのホルモン分析技術開発—
小嶋美紀子・竹林裕美子 (理研・CSRS)
- 14:45 病害応答時における NHP と SA の量の比較 -NHP ってすごいかも -
岡本昌憲 (理研・CSRS)
- 15:05 岡山大学・資源植物科学研究所における植物ホルモン分析
森泉 (岡山大学・資源植物科学研究所)
- 15:15 圃場作物ライフコースホルモン一斉分析で見えてきたもの
平山隆志 (岡山大学・資源植物科学研究所)
- 15:35 総合討論
- 15:55 終わりに